

健診・人間ドック 検査項目

※検査結果をご覧になる際に、ご参考になさってください

検査項目	内容
○身体測定・BMI	体重 (kg) / 身長 (m) × 身長 (m) = 18.5~24.9が普通体重と言われています。
○血圧測定	収縮期血圧 < 130 : 拡張期血圧 < 85 が平常血圧と言われています。
○視力検査	1.0以上あれば良好と言えます。1.0とは直径6mm、切れ目幅1.2mmが認識できる状態です。
○聴力検査	1000Hzで「~30db」、4000Hzで「~40db」が聞こえれば「所見なし」です。
○心電図測定	「心房細動」や「洞性除脈・頻脈」等のリスクを検知できます。
○呼吸器測定	
・胸部レントゲン	肺炎、肺結核、肺がん、肺気腫、胸水、気胸などのリスクを検知できます。
・肺活量	努力肺活量：最大の速さで一気に吐き出せる量 一秒率：一秒量の比率
○消化器系検査	
・胃透視検査	胃、十二指腸のポリープ、潰瘍やがんのリスクを検知できます。
・上部内視鏡検査	食道・胃・十二指腸に発生した潰瘍、炎症、腫瘍、ポリープなどの有無を調べます。
・便潜血 (2回法)	2回とも(-)であれば異常なし (+)の場合は腫瘍、ポリープや痔などが考えられます。
○腹部超音波検査	肝臓、膵臓、腎臓に腫瘍があるか、胆嚢に胆石があるかなどを調べます。
○四肢動脈硬化検査	
・ABI	動脈硬化の度合いや早期血管障害を検知します。 基準値は 1.00 < ABI < 1.40
・PWV	心臓からの拍動が伝わる速さから血管の硬さを検知します。 硬いほど高数値です。
○尿一般	
・糖	尿中のブドウ糖です。(+)の場合、糖尿病や腎性糖尿病を疑います。
・蛋白	腎臓に異常があると(+)になります。が、生理中や運動後に(+)になる場合もあります。
・潜血	腎臓、尿管、膀胱などに異常があると(+)になります。
・ウロビリノーゲン	尿中に出る胆汁の代謝産物の1つです。 肝機能障害などを検知します。
・ケトン体	エネルギーを作り出す代謝に支障が生じた場合に検出されます。
・尿沈渣	尿中の赤血球・白血球・円柱などの成分を調べます。
○腫瘍マーカー	
男性:	
・CEA	喫煙や炎症性疾患、肝硬変、糖尿病で高値になる場合があります。
・CA19-9	膵臓がんをはじめ、胆道、胃、大腸のがんなど、主に消化器のがんを検知します。
・PSA	前立腺に特異性の高い腫瘍マーカー 前立腺炎や前立腺肥大で上昇することもあります。
・AFP	臓器特異性の高い腫瘍マーカーで、肝がん、卵巣や精巣の胚細胞がんを検知します。
・SCC抗原	主に肺や食道、子宮頸部の扁平上皮がんが高値になります。
女性:黄色は男女共通	
・CA125	卵巣がんが高値になりやすく、その他の子宮体がんなども検知します。
・CA15-3	乳がんが高値を示します。原発性乳癌よりも転移性乳癌での陽性率が高く示されます。

医療法人社団 千葉白報会 総合クリニック ドクターランド幕張

〒261-8535 千葉県千葉市美浜区豊砂1-1 イオンモール幕張新都心 グランドモール1階

T E L : 043-351-8555 F A X : 043-351-8666

検査結果についてのご質問、再検査や診療希望については当院までお問い合わせください

○血液検査	
○血液一般	
・ヘモグロビン	赤血球の中の鉄と蛋白が結合した色素で酸素を運び働きます。
・RBC	肺から体の隅々の細胞に酸素を送り、炭酸ガスを運び出す働きます。
・WBC	病原体の侵入から体を防御したり、免疫性を作る働きます。
・血小板数	血管が破れて出血した時に血液を固めて破損部をふさぎ、出血を止める働きます。
・ヘマトクリット	血液中の赤血球が占める割合です。
・MCH	赤血球中の色素量
・MCHC	赤血球体積に対する色素量の割合
・MCV	赤血球の体積
・血清鉄	血清鉄検査の検査は、貧血の病態把握を行うための基本的な検査です。
○血中脂質	
・総コレステロール	高値が続くと、動脈硬化を起し、心筋障害や脳卒中の引き金になります。
・LDLコレステロール	比重の低いリポ蛋白コレステロール いわゆる悪玉のコレステロール
・HDLコレステロール	動脈硬化を予防してくれる善玉のコレステロールです。
・中性脂肪	過剰になると、動脈硬化を始め成人病の原因となります。
○糖尿病検査	
・空腹時血糖	血液中のブドウ糖のことです。
・HbA1c	過去1, 2ヶ月前平均の血糖値を反映する糖尿病の指標です。
○肝臓・膵臓機能	
・GOT	主に肝臓に含まれている酵素で、肝細胞が破壊されると血液中にもれて高値となります。
・GPT	G O Tは他に心筋障害、筋肉疾患でも高値を示します。
・γ-GTP	肝疾患、胆道疾患で上昇します。特にアルコール常飲者では高値を示すのが特徴です。
・LDH	肝臓、腎臓、心筋、骨格筋、赤血球に障害があると高値を示します。
・総蛋白	血清中に含まれる蛋白で、アルブミンとグロブリンで構成されています。
・アルブミン	血清で一番多い蛋白で肝臓で生成されます。
・A/G比	血清中のアルブミンとグロブリンの比です。
・総ビリルビン	総ビリルビンの数値が1.3 mg/dL以上の場合は肝臓や胆管の病気の疑いがあります。
・コリンエステラーゼ	肝細胞でのみつくられる酵素で、血液中へ放出され、からだ中に存在しています。
・ALP	肝臓、胆道、骨に多く含まれる酵素です。
・血清アミラーゼ	唾液と唾液の中に含まれるでんぷんを分解する酵素です。
・クレアチニン	何らかの原因で腎機能に異常をきたしている場合、クレアチニン濃度が高値となります。
・尿酸	細胞中にある核酸の構成物質であるプリン体が、肝臓で分解されて生じる老廃物です。
○胃がんリスク	
・ペプシノーゲン・PG	胃粘膜から分泌され、胃粘膜が萎縮しているかを判定します。
・ヘリコバクター・ピロリ菌	胃粘膜に感染する、胃がんリスクを高めてしまう菌です。
○炎症反応	
・CRP	炎症がある時や組織が破壊された時に上昇します。
・RA	慢性関節リウマチの人にみられる自己抗体です。 肝疾患でも(+)になることがあります。
○心機能	
・CPK	骨格筋、心筋、脳などの損傷の程度を推測できます。
・CK-MB	心筋に多く含まれています。そのため、心筋梗塞などの心筋障害によって上昇します。
・NT-proBNP	心不全の診断・モニタリングにおいて、より鋭敏に心腎機能を反映します。
○肝炎ウイルス	
・HBs抗原	B型肝炎ウイルスに感染していないかを調べます。
・HCV抗体	C型肝炎ウイルスに感染していないかを調べます。
○血液型	
・ABO型/Rh型	血液型を調べます。